

漢字	読み	意味
生憎	あいにく	
灰汁	あく	
英虞湾	あごわん	三重県の地名
海豹	あざらし	
馬酔木	あせび	
安達太良	あだたら	福島県の地名
軋轢	あつれき	仲が悪くなること。「一を生じる」
強ち	あながち	
予め	あらかじめ	
暗澹	あんたん	暗く陰気なさま「一たる思いになる」
行燈	あんどん	行灯とも書く
斑鳩	いかるが	奈良県の地名
幾星霜	いくせいそう	苦労を経た上での、長い年月
十六夜	いざよい	
胆沢	いさわ	岩手県の地名
居丈高	いたけだか	
韋駄天	いだてん	足の速い人のたとえ
一揖	いちゆう	一礼 軽くお辞儀をすること
慈しむ	いつくしむ	
異名	いみよう	
石見	いわみ	島根県石見銀山。世界文化遺産
隠匿	いんとく	
隠滅	いんめつ	
有頂天	うちょうてん	
俯く	うつむく	
自惚れる	うぬぼれる	
麗しい	うるわしい	
回向	えこう	仏事 法要を営んで死者を追善すること。
会釈	えしゃく	
烏帽子	えぼし	
鴛鴦	えんおう	オシドリ 雄のオシドリ、雌のオシダリのこと。「一の契り」夫婦仲の良いこと
嚙下	えんげ	食べ物を飲み下すこと
大舞台	おおぶたい	
晩稻	おくて	
忍野八海	おしのはっかい	山梨県の地名
戦く	おののく	
女郎花	おみなえし	秋の七草のひとつ(秋の七草は食べられない)
赴く	おもむく	
穏健	おんけん	
懐古	かいこ	
晦渋	かいじゆう	
灰燼	かいじん	灰と燃えさし。「一に帰す」

各務原	かかみがはら	岐阜の地名
客死	かくし	
赫怒	かくど	激しく怒ること。激怒。
河岸	かし	
鰻	かじか	川魚
騙る	かたる	
合羽	かっぱ	
金壺眼	こなつぼまなこ	落ちくぼんだ丸い目
甲虫	かぶとむし	
框	かまち	戸・窓・障子などの周囲の枠。床(ゆか)の端に渡す横木。
落葉松	からまつ	
看過	かんか	見逃すこと
含羞	がんしゅう	はじらい。恥ずかしいと思う気持ち。「頬に一の色を浮かべる」
含蓄	がんちく	言葉などの、表面に現れない深い意味・内容
還暦	かんれき	
帰依	きえ	信仰して仏にすがること
気障	きざ	
雉	きじ	
気色ばむ	けしきばむ	怒った様子を表情に表す
拮抗	きっこう	
宜野湾	ぎのわん	沖縄県の地名
杞憂	きゆう	
胡瓜	きゅうり	
供する	きょうする	
喬木	きょうぼく	高木
煌めく	きらめく	
苦界	くがい	
寛ぐ	くつろぐ	
供奉	ぐぶ	身分の高い人にお供すること
水母	くらげ	
企てる	くわだてる	
恵贈	けいぞう	人から貰った贈り物を敬ってという言い方
啓蟄	けいちつ	二十四節気の一つで、3月6日頃。冬ごもりしていた虫が春の到来を感じ、地上へ這い出してくるという意味
下世話	げせわ	
外連味	けれんみ	はったりやごまかしで、奇抜さを狙うやり方
顕著	けんちよ	
狡猾	こうかつ	
好好爺	こうこうや	優しいおじいさん
膠着	こうちやく	
虚仮	こけ	
東風	こち	
御破算	ごはさん	これまでの事を破棄して、白紙の状態に戻すこと

氷下魚	こまい	魚
狐狸	こり	狸と狐「-妖怪の類」
勤行	ごんぎょう	
歳時記	さいじき	俳句の季語を集め分類し解説して書物
蔑む	さげすむ	
栈敷	さじき	
茶飯事	さはんじ	日常のありふれたこと
百日紅	さるすべり	
参詣	さんけい	
恣意	しい	その時々気ままな思いつき。自分勝手な考え。
斯界	しかい	その道を専門とする社会。この分野。「一の長老」
柵	しがらみ	
孜孜	しし	熱心に努め励むさま。「一として研究を続ける」
市井	しせい	市中に住む人。庶民。
地団太	じだんだ	激しく足を踏み鳴らすこと。
疾病	しっぺい	
萎びる	しなびる	
凋む	しぼむ	
注連縄	しめなわ	
灼熱	しゃくねつ	
車軸	しゃじく	
杓文字	しゃもじ	
羞恥	しゅうち	
数珠	じゆず	
出奔	しゅつぽん	
馴致	じゅんち	慣れさせること。馴染ませること
上梓	じょうし	書物を出版すること。「処女作を一する」
饒舌	じょうぜつ	
抄訳	しょうやく	原文の一部を抜き出して翻訳すること。その翻訳。
嘱望	しよくぼう	期待すること 人の前途・将来に望みをかけること
塵埃	じんあい	ちりとほこり「世俗の一を逃れる」
新嘉坡	シンガポール	
斟酌	しんしゃく	相手の事情・心情などをくみとること。手加減すること。
審美眼	しんびがん	美しいものと醜いものとを識別する能力。
素寒貧	すかんぴん	貧乏でお金も物もない状態。
杜撰	ずさん	物事がいいかげんで、誤りが多いこと。「一な管理」
廃る	すたる	
精巧	せいこう	
凄絶	せいぜつ	非常にすさまじいこと。「一な戦い」「一をきわめる」
寂寥	せきりょう	
折衷	せっちゅう	
前哨戦	ぜんしょうせん	
早暁	そうぎょう	

莊嚴	そうごん	
素麺	そうめん	
訴求	そきゅう	宣伝・広告などで、消費者が買う気を起こすよう訴えかけること。
蘇生	そせい	
大綱	たいこう	物事の基本。おおもと
怠惰	たいだ	怠けてだらしないこと
手弱女	たおやめ	優しい女。しなやかな女。
手繰る	たぐる	
但馬	たじま	兵庫県北部
殺陣	たて	演劇や映画・テレビなどで、斬り合い・乱闘・捕物などの演技や場面。立ち回り。
屯する	たむろする	
歎声	たんせい	
団欒	だんらん	
遂次	ちくじ	その都度 少しづつ
嫡出子	ちやくしゅつし	法律上の婚姻関係にある男女の間に生まれた子
紐帯	ちゅうたい	二つのものをかたく結びつけるもの。
彫塑	ちようそ	
佇立	ちよりつ	
通曉	つうぎょう	夜通し。徹夜
拙い	つたない	
躑躅	つつじ	
逡減	ていげん	だんだん減る
天蓋	てんがい	
殿上人	てんじょうびと	
韜晦	とうかい	身を隠すこと、姿をくらますこと。本心を包み隠すこと
踏襲	とうしゅう	前人のやり方などをそのまま受け継ぐ こと。「前社長の方針を一する」
登竜門	とうりゅうもん	そこを通過すれば、立身出世することができる関門
篤志家	とくしか	志のあつい人。社会事業や公共の福祉などに熱心に協力すること人。
心太	ところてん	
泥仕合	どろじあい	
富田林	とんだばやし	大阪府警富田林署の面会室から男が逃走した事件で有名
蔑ろ	ないがしろ	
薙刀	なぎなた	
擦る	なする	
海鼠	なまこ	
倣う	ならう	
柔和	にゅうわ	性質や態度が、柔らかい感じであること
労う	ねぎらう	
涅槃	ねはん	煩惱 の火を消して、智慧 の完成した悟りの境地。
熨斗	のし	慶事における進物や贈答品に添える飾り
罵る	ののしる	
暖簾	のれん	
薄力粉	はくりきこ	軟質小麦
播種	はしゅ	種まきのこと

八幡平	はちまんたい	岩手県と秋田県を股いた奥羽山脈北部の山群
破天荒	はてんこう	前人のなしえなかったことを初めてすること。前代未聞。
破風	はふ	日本の建築で、切妻屋根の端につけた山形の板(がついた所)。
端役	はやく	
半可通	はんかつう	知ったかぶりをする人。
凡例	はんれい	図表で使用する記号等の意味を説明する内容。書物の巻頭にあつて、その編述の方針や使用法などを述べたもの。
直垂	ひたたれ	主に武家社会で用いられた男性用衣服、日本の装束の一つである。
畢生	ひっせい	生涯、終生
弥縫	びほう	失敗や欠点を一時的にとりつくろうこと。
謬見	びゅうけん	まちがった考えや見解。
兵糧	ひょうろう	戦争時における軍隊の食糧のこと。
吹聴	ふいちよう	噂や自慢話などの物事を言いふらす事、言い広める事
風馬牛	ふうばぎゆう	互いに全く関係のないこと。また、自分とは関係のない態度をとること。
不詳	ふしょう	詳しくはわからない事。「年齢一」
文机	ふづくえ	
払拭	ふっしょく	
懐刀	ふところがたな	懐に入れて持つ、小さな守り刀。転じて、内密の計画にあずかる知恵者。
普遍	ふへん	
噴出	ふんしゅつ	
偏屈	へんくつ	
芳紀	ほうき	女性の美しい年頃のおと。「一まさに18歳」
伯耆	ほうき	鳥取県の地名
彷彿	ほうふつ	
鬼灯	ほおずき	
黒子	ほくろ	
穿る	ほじる	
法螺	ほら	
雪洞	ぼんぼり	
益荒男	ますらお	強くたくましい男性。
円やか	まるやか	
満腔	まんこう	体全部。全身
美作	みまさか	岡山の地名
無定見	むていけん	自分の一貫した考え・意見をもっていないこと。
名刹	めいさつ	名高い寺。由緒ある寺
眩暈	めまい	
真岡市	もおかし	
若しも	もしも	
模倣	もほう	
喧しい	やかましい	
香具師	やし	主に縁日やお祭りなどで露店を出して商売する人
擲揄	やゆ	
融通	ゆうづう	
所以	ゆえん	そう言われるようになったわけ。理由。

要綱	ようこう	
揺籃期	ようらんき	
螺旋	らせん	
襤褸	らんる	ぼろのこと
理不尽	りふじん	道理に合わないこと。無理をいうこと。
類似	るいじ	
流布	るふ	広く世間に行き渡ること。「風説の一」
歪曲	わいきよく	
態と	わざと	
煩わしい	わずらわしい	